



伊藤 春美 議員



高齢者への終身サポート体制について

問 生前の意思を明確化し、思いが伝わるよう残すエンディングノートの利用促進と保管場所が重要と思うが考えを伺う。

答 エンディングノートは高齢者福祉課窓口への設置、住宅介護支援事業所などを通じての配布に加え、地域ケア会議の中でも引き続き利用促進していきたい。

保管場所については、事前に家族や関係者に知らせておくことや、消防署と共同設置を推奨している緊急医療情報キット、本市が作成した緊急連絡カードとあわせて保管する方法など検討していく。



旭市版
エンディングノート

問 死後事務委任契約と成年後見人制度は、どのような違いがあるのか。

答 死後事務委任契約は、亡くなった後から執行され、病院・施設への支払い、行政手続き、葬祭、納骨、埋葬等の死後の事務を委任する契約。成年後見人制度は、生前に支援が行われ、亡くなると終了する制度で、認知症などにより判断能力が不十分な方が経済的不利益や被害を受けることがないようにするための制度。

大規模災害時の被災者支援の迅速化と効率化について

問 クラウド型被災者支援システムの導入について旭市の考えは。

答 自然災害の多発化・激甚化が進む中で、対応する職員のパワー不足を補うすべとしてシステムが有効であることは認識している。大規模災害は広域で発生することが多いため、統一されたシステムを使用するほうが、被災者支援を迅速かつ確実に行うことが可能にはなるが、費用対効果の面もあるので、他の自治体の状況も見極めながら検討したい。

※クラウド型被災者支援システム…解説は16ページ。
○新総合防災情報システム(SO BOWEB)の活用方法と活用状況について

道路の安全対策について

問 国道126号沿いにあるタイヤ館旭から有限会社あかざ北側交差点までの間、急なカーブがあり、しかもそこは急に道幅が狭くなっているため大変危険な状態。路肩部分には段差があり、自転車等横転しやすい状況。朝夕の登下校時に安心して通学ができないよう歩道整備はできないか伺う。

答 当該道路は歩道を設置しない計画で、幅員7mまで拡幅する事業を進めてきた。しかし、一部区間で地権者の理解が得られず、道路幅が狭いままとなっている。そのため通行しやすいように整備するのは難しい。段差については、現地を確認し、安全対策を検討していきたい。

不妊治療について

問 市では不妊治療に対してどのような制度があるのか。

答 新たに不妊治療を行う夫婦の経済的負担を軽減するた

め、国で認められているが保険の適用とならない先進医療費の7割を助成する。複数の治療を組み合わせて行うことも考慮し、上限は15万円としている。

問 相談窓口は設置されているのか伺う。

答 専門的な相談窓口としては、県で行っている電話やオンラインによる無料相談がある。これも家庭課では不妊治療を受けるかどうか悩んでいる方の相談にいつでも対応している。

性別を問わない中学校の制服について

問 ジェンダーレスに対応した制服の機能向上と生徒の多様性を尊重するため、性別を問わず制服を選択できないか。

答 自由に制服を選ぶことは出来ないが、機能性や個々の多様性を尊重する観点を考慮し、検討することは、各学校の裁量で柔軟に対応している。期間を定めて体操服で過ごすことや、体操服での登下校を認めることによる酷暑への対応、個々の事情に応じてスカートの代わりにスラックスの着用を認めることによる多様性の尊重が各学校で進められている。

その他の質問事項
○熱中症対策について



伊藤 房代 議員

